



## 第 1692 回例会

平成 24 年 2 月 20 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F  
ゲスト卓話 海南警察署長 江南 拓哉 様

### 1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「手にてつないで」

3. ゲスト紹介 海南警察署長 江南 拓哉 様

### 4. 出席報告

会員総数 59 名 出席者数 39 名

出席率 66.10% 前回修正出席率 72.88%

### 5. 会長スピーチ

みなさん、こんにちは。

昨日の毎日新聞に出でていましたが、一昨日の土曜日、和歌山ビッグ愛で地区 1 組の Intercity Meeting が開催され、あの有名な「稻村の火の館」の館長さんが「浜口御陵と津波防災」と題して基調講演を行いました。東日本大震災で小中学生の多くが助かった岩手県釜石市の例を挙げ、「堤防などのハード面に頼るのではなく、防災意識や避難訓練などのソフト面も充実させるべき」と述べました。また全体会議で、「災害に備えて RC ができる」とをテーマに提言などを発表しました。我々 2 組はどんなテーマになるんでしょうかね。

今日の話は、エネルギー問題と共に今後益々深刻化が予想される食糧問題、とりわけ「食の安全」についてです。一昔前までは、遺伝子というものは生まれながらに決まっている運命的なもので、それを人工的に換えること等は想像も出来ませんでした。それが今では操作することが可能になり、医療の世界では、遺伝子治療やクローン人間等の研究が進んでいます。

現在、日本の食糧自給率は 39%。すでに日本の食糧の多くが輸入されていることは周知の事実ですが、先月から遺伝子組み換えパパイヤの輸入が解禁になっていることはご存知でしょうか。いわゆる飼料用としてではなく、直接人が口にする物では初めての遺伝子組み換え作物になります。しかし、これらの作物につ

会長 田村 健治 君



いて様々な議論がなされているものの、一番身近なはずの私たち消費者のもとにまでその情報の多くは届いていません。

世界では、遺伝子組み換え作物は年々増加の一途を辿っています。日本においては、95%を輸入に頼っているダイズを例に挙げると、主な輸入元の米国におけるダイズ栽培面積当たりの遺伝子組み換えダイズの割合は 93% と、生産されるほとんどのダイズがこれらのダイズであることがわかります。ちなみに、トウモロコシの場合は遺伝子組み換えトウモロコシが 86% を占めます。日本は世界最大のトウモロコシ輸入国であり、そのうち 90% が米国産。つまり、日本の飼料用の穀物はほぼ全量がこれらの作物であるといつても過言ではないです。これらの作物は、乾燥や塩害など不良環境でも栽培できる作物、害虫や特定除草剤に抵抗性を持つ作物として大きな期待が寄せられています。現在、すでに 10 億人以上の人々が栄養不足や飢餓状態にあること、さらに、人口増や食生活の高水準化などに伴い食糧問題がますます深刻化すると予測されていることが、期待への主な背景です。一方、これらの作物を食品として食べ続けても大丈夫かと子や孫など将来世代への影響が計り知れない点、また、これらの作物がその繁殖力の強さなどにより、既存作物の生態系を壊してしまうのではといった点など、長期的な問題による不安が拭い去れないといった懸念が存在しています。

現状としては、これらの作物が世界的に増加傾向にあるということ、そして今後、パパイヤのような遺伝子組み換え作物が日本に輸入されてくる可能性が高いことに変わりはないでしょう。今話題の TPP 条約に加盟した場合、これらの作物に対する日本の安全基準や規制が通用しないといった問題が発生することも考えられます。すでに海外では、イネやコムギの開発も進められているのです。よく知らない。聞いたことがないでは済まされない、新たな食の安全を考える時代に突入しているのではないかでしょうか。

### 6. 幹事報告

幹事 山畠 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東南 RC 3 月 7 日(水)→3 月 9 日(金)

18:30~ アバローム紀の国  
(和歌山南 RC との合同例会)

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか
- ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か
- ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畠 弥生 S A A：岩井 克次

和歌山中 RC 3月2日(金)→3月2日(金)  
19:00~ ルミエール華月殿  
3月9日(金)→3月9日(金)  
19:00~ ルミエール華月殿  
3月30日(金)→3月30日(金)  
19:00~ アバローム紀の国

## ○休会のお知らせ

和歌山北 RC 2月21日(火)  
海南西 RC 3月1日(木)

## ○地区・新入会員研修会のお知らせ

3月24日(土)スターゲートホテル関西エアポートで開催されます。当クラブの対象者は8名です。参加よろしくお願ひします。

## 7. 委員會報告

○親睦活動委員会 委員長 中西 秀文 君  
例会終了後、委員会を開きますので、委員の方は、  
残ってください。

○社会奉仕委員会 委員長 魚谷 幸司君  
4月15日(日)にたんぽぽの会との交流会を開催します。詳細は追ってご案内しますので、ご参加よろしくお願いします。

## 8. ゲスト卓話

みなさん今日は。はじめに、犯罪情勢ですが本県は 10 年連続減少、10,955 件（まだ 1 曜 30 件発生）で、海南署管内では 448 件。平成に入ってから最も少ない数字です。ここ 2 年間で約 3 割減少しています。最も多かったのは、平成 11 年で、1,413



件でした。最近では、オレオレ詐欺、社債詐欺が横行しており、和工の生徒名簿が利用されました。「だまされると信用してしまい、周囲の人の言うことを聞かない」という状況になります。私は、と思っていてもだまされることがありますので、皆さん方の家族、親類等にも注意を促してください！

また、交通事故では、こちらも 10 年連続減少で、海南署管内では 296 件です。200 件台は、昭和 39 年の 267 件以来のことです。しかし、死者の数は 9 名で、県下 14 署で最多、うち 6 人は高齢者で、3 人に 2 人となっています。高齢化率は、海南市で約 30%、紀美野町で 37%、管内の免許保有者のうち、高齢者は 5 人に 1 人の割合で、そのうち、3 分の 1 以上は 75 歳以上です。数字上では、通行している車の 13 台に 1 台は 75 歳以上の高齢者が運転している車ということになり、歩行者とドライバーの両面での対策必要です。加害者と被害者がともに高齢者で「老・老事故」も発生しています。皆さん方も、また、家族、親類にも注意を呼びかけてください。ご高齢の方は転ばぬ先の杖で、もう危ないと思ったら免許返納をお願いします。

では、私の経験から、少しお話いたします。私が三年前、交通指導課当時、和歌山県警ホームページに「こんな取り締まれんのか！」「和歌山県警は何をして

いるのか！」の書き込みがありました。動画投稿サイトのユーチューブに「高野龍神スカイラインで爆走」との題名でビデオ画像をアップロードされていたことに対する書き込みです。それは、高野龍神スカイラインを単車が走行している映像で、ハンドルにビデオ設置して、スピードメーターと前方の風景が映っています。スピードは250Kmとなっていました。高野龍神スカイラインでの単車の暴走行為については、以前から住民の方々や善良なドライバーから、迷惑情報が寄せられており、私たちはこの捜査を始めました。しかし、検挙するには、犯罪構成要因として「いつ、だれが、どこで、どんな方法で、なにをした」を立証しなければなりません。当初、映像だけでは困難では？と考えていました。判っているのは高野龍神スカイラインという場所だけです。捜査方針としては、観光客等みんなが困っており、善良なライダーも迷惑していることから、県警の威信をかけて取り組みました。

高野龍神スカイラインは、40km 以上の距離のあるワインディングロードで、ライダーにとって魅力的です。しかも、無料。近畿で単車が走行できる場所としては、六甲、信貴山が単車の走行を禁止しており、唯一の場所として、人気があります。

捜査では、先ず画像の精査を行いました。途中で抜かれた車のナンバーが読み取れたことで、そのドライバーから「家族で行ったこと」、「ものすごい速度で追い抜かれたこと」さらに、家族で風景等のビデオを撮影していたことから、年月日、ビデオの撮影時と追い抜き時の差から違反日時を特定しました。これによって、いつが特定できたわけです。これで何とか目途が立ち、次の糸口として、インターネットへアップロードした際のIPアドレスから、大阪のあるマンションを特定。画像のメーターの形状や単車の特定から、カナダからの逆輸入の1,200CCの単車であると判明。さらにマンションで同一単車を発見。張り込み捜査から、住人は国際B級ライセンス取得していた者で状況証拠から容疑者が浮上しました。しかし、状況証



その結果、所持者は単車を貸したことが判明した。運転手の名前、住所等は知らないが「ラムちゃん」との愛称の男性であるとのことが判り、ライダー仲間への聞き込みを行いました。ただ、ライダーは仲間のことを喋ることに抵抗があり、誰かは、なかなか話してもらえませんでした。しかし、捜査の中から、20年来、高野最速の男が浮上。一般の会社勤め、妻も子どももいる普通の家庭の男性でした。通称ラムちゃんは、事情聴

取で、完全黙秘。免許がなくなることや、会社を解雇されてしまうことを恐れたが、違反内容を特定（速度鑑定）するため、警察庁の科学警察研究所で鑑定。ビデオのコマ数の特定など、最終的に 188 キロ（138 キロオーバー）で走行していたことを証明でき、逮捕できました。この事件では、全国初のインターネット画像からの違反検挙となり、ヤフー検索サイトで検索件数が全国 1 位となり、社会的関心の高さが示されました。そして、県警の威信も保てました。その後、県警ホームページに全国から賞賛の書き込みがあり、千葉、静岡、沖縄等から「うちでも検挙してほしい」など。しかし一番よかったです、住民や観光客が安心して通行できると喜んでくれ、善良なライダーが肩身の狭い思いをせずにツーリングを楽しめるなどの声が寄せられたことです。捜査開始から検挙まで、捜査員 8 名を擁して約半年、たかが道路交通法の速度違反 1 件の検挙、されど速度違反 1 件。われわれ警察は地域住民が何を望んでいるかに対処すべきことが必要であると思います。今後もこのことを肝に銘じて仕事をしていきたいと思っています。冒頭、数字の上での治安は大きく回復していると申しましたが、今後、この傾向を定着化させることと、数字上の治安維持だけではなく、住民が望んでいることに素早く対応し、住民に安心感を持ってもらえることが重要ではないかと思います。皆様方のご協力をお願いします。ご清聴有難うございました。

## 9. 閉会点鐘

### 次回例会

第 1691 回例会 平成 24 年 2 月 13 日(月)  
12:30~ 海南商工会議所 4 F

### 会員卓話

中村 俊之 君 大江 久夫 君 大谷 徹 君



## ニコニコ・BOX

宇恵 弘純君

お忙しい中、江南署長にゲストとして来ていただきました。

木地 義和君

日本海の雪を見てきました。

中尾 享平君

忙しくて欠席が続きました。

田岡 郁敏君

江南様、今日はよろしくお願ひいたします。歯科医師会の新年総会ご臨席ありがとうございました。

## 2012年 国際大会

2012 年 5 月 6~9 日  
"微笑みの国"タイ  
バンコク  
参加者 募集中！



## 2月は世界理解月間です



# 国際ロータリー ニュース

## 人権擁護に身を捧げる

### ロータリー平和フェロー

英国政府の法廷弁護士だったフランチェスカ・デル・メーゼさん。国際的な仕事に就くという夢を抱いてロータリー平和フェローに申請した彼女は、ワットフォード・ロータリークラブ（英国）の推薦を受けて、2002-04 年度にクイーンズランド大学（オーストラリア）に留学しました。



留学中、専門分野の実地体験としてシエラレオネ特別法廷でインターンシップを行い、後にハーグにある旧ユーゴスラビア国際戦犯法廷で戦犯の起訴に携わりました。またハーグでは、ヨルダンの判事を対象とした国際刑事法の研修に当たりました。

2007 年、デル・メーゼさんはウガンダを訪問し、国内紛争による人権侵害の問題に取り組んでいる非営利団体のアドバイザーとなりました。ウガンダでは、誘拐され、少年兵となつた経験を持つ子供たちが約 3 万人います。デル・メーゼさんはこうした子供たち数十人にインタビューを行いました。「夜中に突然やつてきた兵士たちに、目の前で家族を殺害され、暴行され、無理やり少年兵として戦場に送られた子供たちが大勢いる」とデル・メーゼさん。紛争が終わって故郷に戻っても、教育を受けていない元少年兵らは、ごみ集めや穴ほりなど、低賃金の労働にしか就くことができません。「教育がなければ、就職の望みはありません。インタビューした元少年兵の多くは、教師、仕立屋、大工職などに強いあこがれを抱いていました」

昨年には、ジュネーブにある国連調査委員会の法律顧問として、シリアでの非人道的行為の調査に当りました。現在はロンドンに暮らす彼女ですが、拷問のケースファイルを見たときのショックなど、心の痛みを今も拭い去ることができないそうです。「今はこの平穏な日常をかみしめたい」と話す彼女は、フリータイムに自宅近くの閑静で愛犬との散歩を楽しんでいます。デル・メーズさんは、世界各地の有名大学に設置されたロータリー平和センターで平和と紛争解決について学んだ 600 人以上の平和フェローの一人です。今年は、平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターの創設 10 周年にあたります。現・元ロータリー平和フェロー、財団学友、ロータリアンは、バンコク（タイ）で開かれるロータリー世界平和シンポジウムに参加し、平和と紛争解決の分野に関する最新情報を学び、第一線で活躍する専門家の講演を聞くことができます。ロータリー学友行事と共に行われるシンポジウムは、2012 年 RI 国際大会の直前、5 月 3~5 日に開かれます。

## 2012年ポリオ・サミットをインドで開催



インド、ウッタルプラデシ州で子供に予防接種を行なうロータリアン。(写真提供: Allison Kweesell)

2月25日と26日、ニューデリーにて、インド保健厚生省と国際ロータリーの協力の下、2012年ポリオ・サミットが開催されます。インドは、2012年1月をもって、1年間のポリオ無発生を達成したばかりです。このサミットの目的は、人々の認識を高めてポリオ撲滅

への協力を促すこと、政府やそのほかの関係者からの力強いサポートを確保すること、定期的な予防接種を推進することです。さらに、現在もポリオ常な在国となっているアフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンをはじめ、全世界でポリオを根絶するための方策が話し合われます。サミットには、政府要人、保健関係者、インドや周辺国のロータリアンなど1,000人以上が参加する予定となっており、さらに、国際ロータリー、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、米国疾病対策センター、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からもぞれぞれの代表者が出席します。「ポリオ・サミットでは、政治や宗教の関係者からの協力だけでなく、企業や一般の人々からの支援も呼びかけることができます」とカルヤン・バネルジーRI会長は話します。サミットに先立つ2月19日には、海外から集まった200名以上のロータリアンがインドのロータリアンと協力し、全国予防接種日に参加しました。そのうち約半数のロータリアンが現地に残り、ポリオ・サミットに出席する予定です。サミット終了後の2月27日には、インド・ポリオ・プラス委員会が全国ポリオ・プラス・オリエンテーションと計画会議を実施し、ガバナー・エレクトと地区ポリオ・プラス委員長が参加します。

今回のサミットの議長を務めるラジェンドラK.サブー元RI会長は、意気込みを次のように語ります。「インドではポリオ撲滅を達成できる日が間近に迫っています。インド、そして世界からポリオがなくなるまで、国際ロータリーは、この活動を率先して続けていきます」インドのグラーム・ナビ・アザード保健厚生大臣は、昨年9月に米国エバントンのRI世界本部を訪れ、ロータリーのこれまでの貢献を称えました。「ロータリーは、資金面で大きく支援してくださっただけでなく、現場で積極的に活動に参加しています。わが国インドに対するロータリーからの支援に対し、感謝の気持ちでいっぱいです」

## ロータリー107周年を祝う

これまでロータリーは、最優先項目であるポリオ撲滅に向けて、大きく前進してきました。それを証明する例として、かつてポリオ感染の中心地であったイン

ドでは、今年1月の時点で、1年間ポリオ無発生という快挙が成し遂げられました。

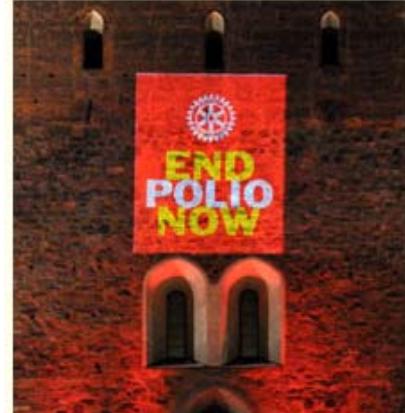
2011年には世界全体で650件の感染が確認され、2010年の1,352件と比べて感染数が半減しています。ポリオ撲滅活動が開始された1988年当時、毎年35万人の子どものポリオ感染が確認されていましたが、122カ国で20億人以上の子どもに予防接種が提供されてきたおかげで、感染数は99%以上減少しました。こうした活動がなかったら、500万人が身体麻痺に苦しみ、25万の尊い命が失われていたと推計されています。また、ロータリーはこれまで、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から寄せられた3億5,500万ドルの補助金に応えるために、2億ドルの募金チャレンジに取り組んでいましたが、今年1月、とうとう目標額に到達しました。ゲイツ財団は、ロータリーの達成を称え、さらに5,000万ドルを寄付しました。これら総額6億500万ドルの資金は、ポリオ常な在国での予防接種活動の支援に充てられます。

「私たちは、今回の達成を祝うべきですが、これで募金やポリオへの認識向上運動を止めるわけではありません」と話すのは、ロータリー財団管理委員のジョンF.ジャーム氏です。「ポリオのない世界が証明されるまで、私たちは活動を続けていかねばなりません」

「END POLIO NOW(今こそポリオ撲滅のとき)」のロゴを投射するイベントは、2月の恒例行事となりました。

今年も、多くのロータリー・クラブによって、世界中の有名建造物にポリオ撲滅のメッセージが照らし出されました。ロゴが投射された場所には、カラチのフレアホールとラホールのWAPDA政府ビル(パキスタン)、ロンドンタワー(英国)、台北の市庁舎(台湾)、メルボルンのフェデレーション・スクエア(オーストラリア)、イエズス会伝道所跡とクリティバのガリバルディ邸宅(ブラジル)などがあり、日本では、東京の六本木ヒルズで投射が行われました。

これらの投射行事は、「身体の自由を奪うポリオを世界から撲滅する」という、ロータリーの誓いを世界に発信するものであると、インド出身のカルヤン・バネルジーRI会長は説明します。「ここで活動をやめるわけにはいきません。ポリオのない世界を実現するまで、そして、ポリオの再流行を防ぐために、ロータリーとそのパートナーは、これからも子どもたちへの予防接種を続けていきます」



ロータリーの創立記念日である2月23日の週、世界中の有名建造物に、ポリオ撲滅のメッセージ「END POLIO NOW」が投射されました。写真は、フィンランドのトゥルク大聖堂。